

平成 26 年度（2014 年度）セタシジミ資源概況調査

磯田 能年・石崎 大介

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は 100 トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、平成 9 年より産卵期前にあたる 5～7 月に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方法

平成 26 年 5 月 24、25 日に琵琶湖北湖のセタシジミ主要 7 漁場（表 1 の※）を含む 16 漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網（開口幅約 140 cm、網目 3 cm）を用いて調査した。各漁場において 1 分間ないし 2 分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。GPS の軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕量を計算し、生息密度とした。主要 7 漁場については 3 回曳網し平均生息密度を算出した。

3. 結果

主要漁場の生息密度は平均 0.89 個体/m² であり平成 25 年よりやや増加したが、資源状況は低位にある（図 1）。その内殻長 18mm 以上の平均生息密度は 0.32 個体/m² であった。今西の漁場で生息密度が減少したが、それ以外の漁場はやや増加した（図 2）。主要漁場以外ではすべての漁場において生息密度が 1m² あたり 1 個体以下であり、資源状況は低位のまま推移している。資源は変動を繰り返している可能性があるが、資源が減少した時に漁獲圧が過剰となることは、今後の資源回復に影響を与えることが予想されることから、資源管理の取り組みを継続するとともに、今後の資源状況に注意が必要である。

表.1 各調査地点におけるシジミの生息密度(主要漁場は平均)

地点	個体数	曳網面積 (m ²)	密度(個体/m ²)
菖蒲	104	378	0.27
牧	121	442	0.27
沖島南西※	203	205	0.98
沖島西※	256	221	1.16
沖島東※	197	192	1.05
新海	83	363	0.23
石寺	53	377	0.14
松原※	169	207	0.81
磯※	267	200	1.33
長浜※	103	194	0.53
今西※	75	220	0.35
海津	208	458	0.45
針江	119	375	0.32
鴨川	389	495	0.41
高島	178	439	0.79
近江舞子	105	472	0.22
平均			0.58

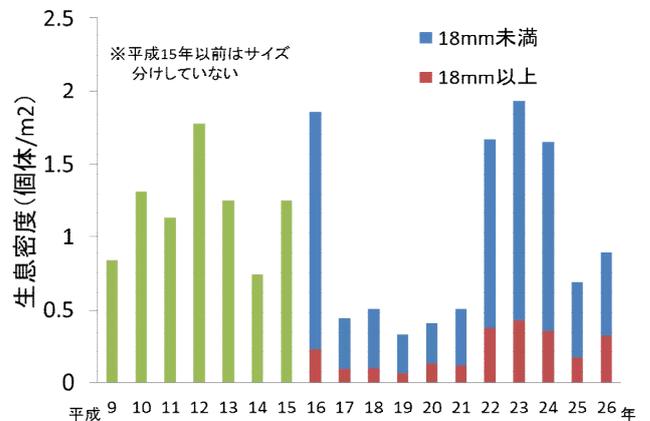


図1 主要漁場における生息密度の推移

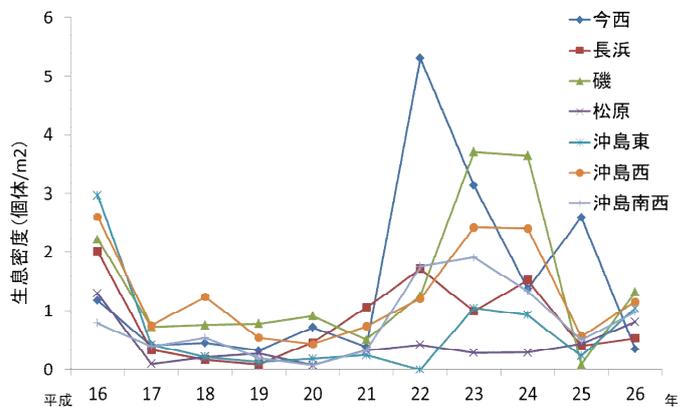


図2 各漁場における生息密度の推移

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。